

# 城生・深谷の露頭

## 城生（じょうの）天狗平の露頭

県道25号線を富山市井田から小羽方向へ進んでいくと、左手に国際電気グラウンドが見えてきます。このグラウンドの脇を通って神通川に出る道路沿いに、貝化石を多数含む露頭があります。露頭の最下部は粘土質の東別所層でその上には不整合に音川層が、最上部には不整合で呉羽山礫層がのっています。この中で、特に音川層の中に化石を含む層が幾層も見られます。新生代新第三紀という比較的新しい地層なのですが、密集した貝化石から溶け出したカルシウムがまわりの砂を固めたため、固くしまっています。また、特に化石が密集した部分には、ノジュールと呼ばれる円い固まりが見られます。



この露頭は変則な三方切端となっているので、地層のつながりと広がりを観察することができます。グラウンド沿いの坂を下っていくと、左右に同じ層序を観察することができ、左右の層が元はつながっていたことが分かります。さらに、道路を下ると今まで見えていた地層を真横から見ることで、層の広がりを感じ取ることができます。

この露頭は、旧八尾町の教育委員会が天然記念物に指定しており、化石の採取はできません。しかし、神通川の河川敷やすぐ近くの深谷の土砂採取場まで同じ層が続いているので、化石を採取することができます。



道路の南側



道路の北側



神通川沿い



ノジュールと貝化石の密集層

## 深谷の土砂採取場

県道25号線をはさんだ南側に、城生の化石層が続いている深谷の土砂採取場があります。音川層の上部は細かな粒の砂（シルト質）なので、宅地などの表土として使われることが多いようです。ちょうど化石を含む層を掘り出しているので、崖ではなく地表に現れている化石を掘り出すとよいでしょう。



城生・深谷で新しく発見され命名された貝には、エッチュウカカミガイ、アラスジサラガイなどがあります。その他にも、クサビガタオオノガイやエゾタマキガイなどの二枚貝、イワキトクサバイやエゾボラなどの巻き貝が産出しています。

この土砂採取地の採掘権は、東洋住設興業(076-455-3678)と角土石(076-429-0041)にありますので、事前に承諾を得ておく必要があります。



深谷の露頭



貝化石の密集